



読字 萩原田 親

No. 638

2011/5/25

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒113-0033 東京都文京区湯島
西3-1-1 東京ビル3階

日中友好協会
岡山支部
〒710-8236
岡山県北3-8-30 511
TEL:0861272-3010
郵便番号11所
01250-0-3835

日中友好協会
倉敷支部
〒712-8911
倉敷市連島中央1-8-1 (宮地方)
TEL/FAX:0860446-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://izhong.web.infoseek.co.jp>
メールアドレス
rizhong86@hotmail.co.jp



「中国からの引き揚げ——少年たちの記憶」漫画展

岡山・倉敷・総社ともに大盛況



常時20人から30人の人々で賑わった漫画展

日中友好協会岡山支部

事務局長 小林軍治

日中友好協会岡山支部は、4月27日、28日に岡山市役所一階ロビーで、4月30日、5月2日には高島公民館で漫画展「中国からの引き揚げ——少年たちの記憶」を開催しました。事前にマスコミ各位へ展示日程や内容について送付し、記者会見を行っていた成果か、27日には、朝からテレビ(NHK、RSK、RNC)と新聞(山陽、毎日、読売、岡山日日、赤旗)が熱心に取材をしました。テレビ各局は、当日の昼と夕方のニュースで、新聞各社は、28日の朝刊で一斉に報道しました。

28日には、9時から15時まで、常に20人前後の人々が鑑賞しました。ときには、30人を超える人々が鑑賞し、約一時間くらいかけて熱心に見て回る人、ある展示を食い入るような視線で見つめる人、なかなかその場を離れない人など会場全体が熱気に包まれました。会場を提供してくれた岡山市福祉課の課長さんも大盛況です」と喜んでくれました。岡山市役所では、準備をした26日の15時以降を含めて約700人、孫と一緒のおばあさん、若い女性の二人連れなど多彩な人々が鑑賞しました。開催して本当によかったです。

今は亡き母に感謝

私は「中国引き揚げ65周年記念企画」として取り組まれている今回の漫画展には、特別の思いがあります。私自身が、1946年9月20日にコロンビアを出発し、10月11日に佐世保に到着した旧満州からの引き揚げ者です。4歳の時でした。まさに中国引き揚げ65周年です。印象に残った作品は、逃避行中の母と子の姿を描いた「つかいり」を背負ってかあちゃんにしっかりとつかまわって(赤塚不二夫)と母に抱かれて(林静一)です。これらの作品は、母から聞かされてきた引き揚げ道中の話と重なり、2003年3月に88歳で亡くなった母親を思い出しま

す。同時に、地獄と化した旧満州から、よくぞ生きて日本へ連れ帰ってくれたと感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。



お孫さんとともに

高島公民館

高島公民館は、3日間で約100人が訪れました。準備から片付けまで公民館の職員と中国帰国者の日本語教室岡山の会「講師の皆さんに大変お世話になりました。」2人の講師の感想を紹介します。

心に届いた漫画の底力

成田宣子

高島公民館での漫画展には、約100人の参加者が訪れて一枚一枚の作品にじっくりと向き合っていました。この漫画展のためだけに遠く玉野市から来たという男性は、ちょうど65歳。お母さんがたいへん苦労して自

分達子どもを無事連れ帰ってくれたという引き揚げ体験を熱く語ってくれました。12人の漫画家達が心に残った引き揚げの記憶を絵にし、日中友好新聞でもおなじみの石子順氏が聞き書きしたコメント入り。どれも戦争の時代を色濃く反映し、当時の状況を克明にたどった作品ばかりで、参観者からは多くの共感の声が寄せられました。私も引き揚げなので、これ見たかっただけです。私の母もハルビンから引き揚げです。一家で船でかえるとき、何もかもなくして帰ったといっていました。昭和9年生まれ、この漫画の時代に大きく変わった。父は戦死。戦争は絶対にあつてはなりません。終戦後、海外に残された多くの日本人が引き揚げ中、満蒙開拓団の人たちのように日本に帰れなかった人々もいることを忘れてはなりません。ユーモア溢れる作品の中にも、悲惨な戦争は二度と繰り返さないぞ」という強烈なメッセージが確かに伝わってきました。

一日間受付の手伝いをした中で、昔の思い出として決して心置き物語ではなく、引き揚げ者という辛い立場からの幼き日の実話を何人の方から伺い知りました。絵を見て、ご自分を位置する人物像があり、その周りには母親と兄弟がいる。日本へ帰りついた時には自分よりも小さい子供はいない。後から生まれたはずなのに、先に消えてしまった。その時は皆が必死で、「生きる」ことだけを考えていた。親について、手を離さないで！を信じて歩いて来たのだと思った。今の被災地での様子も似ていて、がれきりの中に苦しいほどの実態があり、それでも生きていくという力強い思いで、少しずつ笑顔を取り戻して来ている。日本語を学び、まだ語り上手とは言えなくても、絵の中から、そう昔はこういう物を食べていた。」と恥ずかしそうに語られていて、私も同じような木の実を食べ

漫画展から

佐々木良子



お手伝いくださった山崎さんと佐々木さん

べていた事を話し、昔話に花が咲く。辛く苦しい昔の出来事が、今回の漫画展を通して、ほのぼのとした雲のように柔らかな景色に変わり、元気な人や街になることを願います。

漫画展をふりかえって

日中友好協会倉敷支部 倉敷9条の会 和田英昭

倉敷では5月6日～8日の3日間、倉敷公民館で「倉敷支部」と「倉敷9条の会」の共催で行いました。展示場は、岡山会場から能書家の揮毫（漫画展）をお借りしてレイアウト。連休明けにもかかわらず、400名の来場がありました。70点に及ぶ作品群に手狭感はありませんが、お茶のコーナーなども設け、ゆつくり鑑賞していただきました。

らさが身にしみています。ちばつやさんの社宅を脱出して転々とした絵に魅せられました。孫達の時代が平和でありました。祖父が満州に行っていました。今回来てみて、イラスト等で体験が書かれており、すごく良かったです。私達、若い世代が語りついでいかなければと思います。「子どもの頃見た上田先生の作品、以前にこのような過去があったのかと驚きました。著名な方々の作品なので若い人も身近に感じられます。各地で行ってほしい。」子どもの眼から見た戦争、記憶の引きしも感じられた。「改めて戦争は絶対悪だと感じました、二度と戦争を起こさないために、一人一人の心に平和の心をうちたてていくしかないと思います。」

来場者は、女性が65%。50才以上が70%で、その中で70才代が60%を占めていました（アンケートより）。引き揚げ経験者の方も多くいて、一枚一枚の絵に当時の自

分や家族の姿をダブらせていたのが印象的でした。戦後66年、未だに人々に深い影を落としていく戦争。その恐ろしさと、平和の尊さを改めて思い知らされた巡回展でした。皆さんから寄せられた声の一部を紹介します。漫画という形での表現がより心に響きました！二度来ました。感謝でいっぱいです。「来て本当によかったです。遠い幼い頃が思い出されま

す。8月15日8才の私を頭に姉弟5人の子供を・・・母の強さを思い出します。父もシベリア帰りです。」同世代の作者の絵に感銘を受けました。私は日本国内でしたが、食糧不足飢えのつ

第82回岡山県中央メーデー



左 小林事務局長 右 宇野支部長

第八十二回岡山県中央メーデーが、5月1日、旭川河川敷で開かれ、約600人が参加しました。

働く者の団結で生活と権利を守り、平和と民主主義、中立の日本をめざそうのメーデースローガンのもと、県労会議加盟組合と人権連などの民主団体が実行委員会を結成して開催しました。今回は、東日本大震災の被災地支援「原発推進政策をやめて、エネルギー政策の抜本的見直しを。」などが、メインスローガンに加わりました。

日中友好協会岡山支部は「日中不再戦は、憲法9条を生かす道」の立場から、日中の旗をもって、宇野支部長、小林事務局長が参加しました。

寒い花見でした

4月3日

13人の参加で、太極拳講習会のことしの花見は、しっかりと着込んでいました。里山センターの桜も2分咲きかな？ご自慢の料理や弁当をもちこんで、寒さをよけて部屋の中でお昼でした。



竹内

中国から 黄 艶萍さんのお便り

5月5日

ゴールデンウィークはいかがが過ぎましたか。今回の新聞をお送りいただきありがとうございます。坪井さんの感想文を読みながら、日中友好の皆さんのことを思い出しました。

私は中国の現地にいて、日中友好のことを周りの人々に伝えたい、広げていきたいとの気持ちは一瞬も忘れていません。時々、こちの様子も文章にし、投稿していきたいです。5月17日 ご無沙汰しております、日中の皆様お元気ですか。



黄さんが作ったちまき

日中友好新聞電子版をお送りいただきありがとうございます。先日、坪井先生の文章を読み、感動しました。坪井先生の私に對しての熱い思いもよくわかりました。先生の日中友好に對しての熱意もよく伝わってきました。先生にありがとうございます。私もお伝えください。私も、こつちでささやかなことから、日中友好活動をやりたいと思います。

ちまきを作りました

黄 艶萍

2011年5月18日

陰暦の5月5日は、中国伝統な祭日「端午節」です。この日、ちまきを食べます。もち米に具（お肉、なつめ、アズキなど）を入れ、ヨシ、タケ、ササ、ハスの葉などで包んでしばらく、ゆでたり蒸したりする。例年、母がちまきを作ってくれました。今年母がなくなりました。私が作ってみました。頑張った結果を写真にしました。見てください、私が作ったちまき！家族みんな「おいしい」と言ってくれましたよ。

新しいお仲間紹介

広島から越してこられた、在木美由紀（アリキ ミユキ）さんです。よろしく。10年くらい前から、日中友好協会広島支部の会員でしたが、今年春から御津で田舎暮らしを始めましたので、岡山支部でお世話になります。

15年前、初めて中国に行った時から中国の魅力にとりつかれ、なんと中国の人々と友達になりたいと、日中友好協会の講座で、太極拳と中国語を習いました。おかげで多くの友人を得ることができ、人生の楽しみが増えたことをとても嬉しく思っています。

次回の新聞発送作業は6月1日(水)午後1時半

民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

石川 内和
小林 竹